

平成 29 年秋期 釜利谷地区推進連絡会

- | | | |
|---|---|-------------|
| 1 | 日時 | |
| | 平成 29 年 10 月 2 日 (月) | 17:00～19:00 |
| 2 | 場所 | |
| | 釜利谷地区センター | |
| 3 | 参加者 | |
| | (地域側) 自治会等地域団体関係 | 25名 |
| | 学校関係 (釜利谷中) | 1名 |
| | (支援チーム、その他行政側) | |
| | 区役所 | 12名 |
| | 区社会福祉協議会、地域ケアプラザ | 12名 |
| | 警察、消防 | 3名 |
| 4 | 第 3 期釜利谷地区地域福祉保健計画の平成 29 年度上半期振り返り | |
| 5 | 意見交換 | |
| | 地域の方々と支援チームが 6 グループに分かれ、下記のテーマについて意見交換し、グループごとに発表 | |
| | 【テーマ】 | |
| | 子育て・青少年育成についての取り組みについて | |
| | ① それぞれの地区の特徴と現在行っている取り組みについて | |
| | ② 悩みや問題点 | |
| | ③ 将来に向けて、地区に期待されていること | |
| | 【主なご意見】 | |
| | 《環境・取組について》 | |
| | ▶ ケアプラザ、交番、消防、大学があり、子育てする土壤に恵まれている。 | |
| | ▶ 子どもたちの防災力強化が子どもの育成につながる。子どもが親に話すことで、家庭内での防災力アップにつながる。 | |
| | ▶ 通学時の見守りで、あいさつ運動を大学生のボランティアとともに展開しており、子どもたちも主体的にあいさつをするようになってきた。 | |
| | ▶ 英語、算数、そろばんを、無料で地域の子どもたちに教えている。 | |
| | 《日ごろの関係性・多世代交流について》 | |
| | ▶ 大人が率先して子どもと関わることで、共に明るく地域の活動に取り組めてい | |

る。また、子どもたちに関わることはその親たちとの関係を構築できるきっかけにもなる。この「親子とのつながり」を今後、地域の多様な場面で活かしていくことが重要である。

▶地域での更生保護活動が重要。過ちを犯した人たちを地域で温かく受け入れることが大切であり、そのためには、防犯パトロールなどを通じて、子供の頃からあいさつができる関係を地域でつくっておくことが不可欠である。

▶地域で様々な「子どもを対象とした事業」を展開してくれているので、中学校では、生徒をいかに地域活動に参加させることができるかを考えている。先日、隣接の小学校で行われた地域防災拠点の訓練に生徒を参加させる試みも行った。中学生を地域の担い手として、積極的に行事に参加させていただくとともに、地域の方からの見守りをお願いしたい。

▶あいさつをしても顔見知りでないと警戒されてしまう。

▶多世代交流をしていきたい。ラジオ体操などは交流の場となっており、子どもの参加が多いので顔見知りになるには適切な環境である。

▶子どもは、幼少時から感謝の気持ちや思いやりを育み、あいさつを習慣とすることが大切で、そのためには、多世代で交流することが効果的である。

《担い手の問題について》

▶青少年育成のための様々な取り組みを実践しており、サロンなども充実している。一方、運営する側の高齢化や、参加・運営人数の減といった課題も多い。

▶活動を充実してほしい、参加したいという声は多いが、企画や運営してくれる人がいない。担い手の世代交代が難しい。

▶夏祭りや餅つきなど運営する側の高齢化が課題となっており、世代間の引継ぎがうまくいっていない。

▶全体的に若い世代の人たちのイベントの参加が少ないので、若い人たちをうまく巻き込めるような取り組みを進める。

▶子育て世帯が地域でどう関わっていくのか。お祭りなどは集まるが、それ以外の参加がない。

▶寺子屋小泉塾やあいさつ運動を兼ねた防犯パトロール、ラジオ体操などを展開しているが、自治会・町内会役員の担い手がいない。

▶子ども会の役員など若い親と話が出来ない。親も忙しく、その時間がとれない。

▶これからは自治会町内会を通じて、子ども会との連携を今以上にとり、若いお母さんたちとコミュニケーションをとっていきたい。さらに踏み込んだ付き合いをすることで、初めて、お母さんたちの本音が引き出せるのではないか。